

プログラム番号	07011
---------	-------

平成19年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	熊本大学 大学院医学教育部		
②学長名	崎元 達郎		
③所在地	〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	医学専攻 教授	
	担当者氏名	玉巻 伸章	e-mailアドレス tamamaki@gpo.kumamoto-u.ac.jp
	電話・FAX番号	電話 (096) 373-5298 FAX (096) 373-5030	
⑤ホームページ URL	http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/index.html		
⑥大学院在学留学生数	189 人 (うち、国費留学生 75人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	「エイズ」「発生・再生医学」国際的研究拠点での研究者育成プログラム
②プログラムの形態	博士課程 (4年)
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が単数
④実施研究科・専攻	大学院医学教育部 医学専攻
	(所在地) 熊本市本荘2-2-1
⑤連携大学・研究科・専攻名	無し
⑥受入れ学生数	20 人 (うち研究留学生優先配置人数: 6 人) (うち日本人学生数: 8 人)
⑦担当教員数	合計 297 人 (うち専任: 297人、兼任: 0人、非常勤: 0人)
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名 医学教育部・部長
	研究科長名 山本哲郎

【3. プログラムの内容】

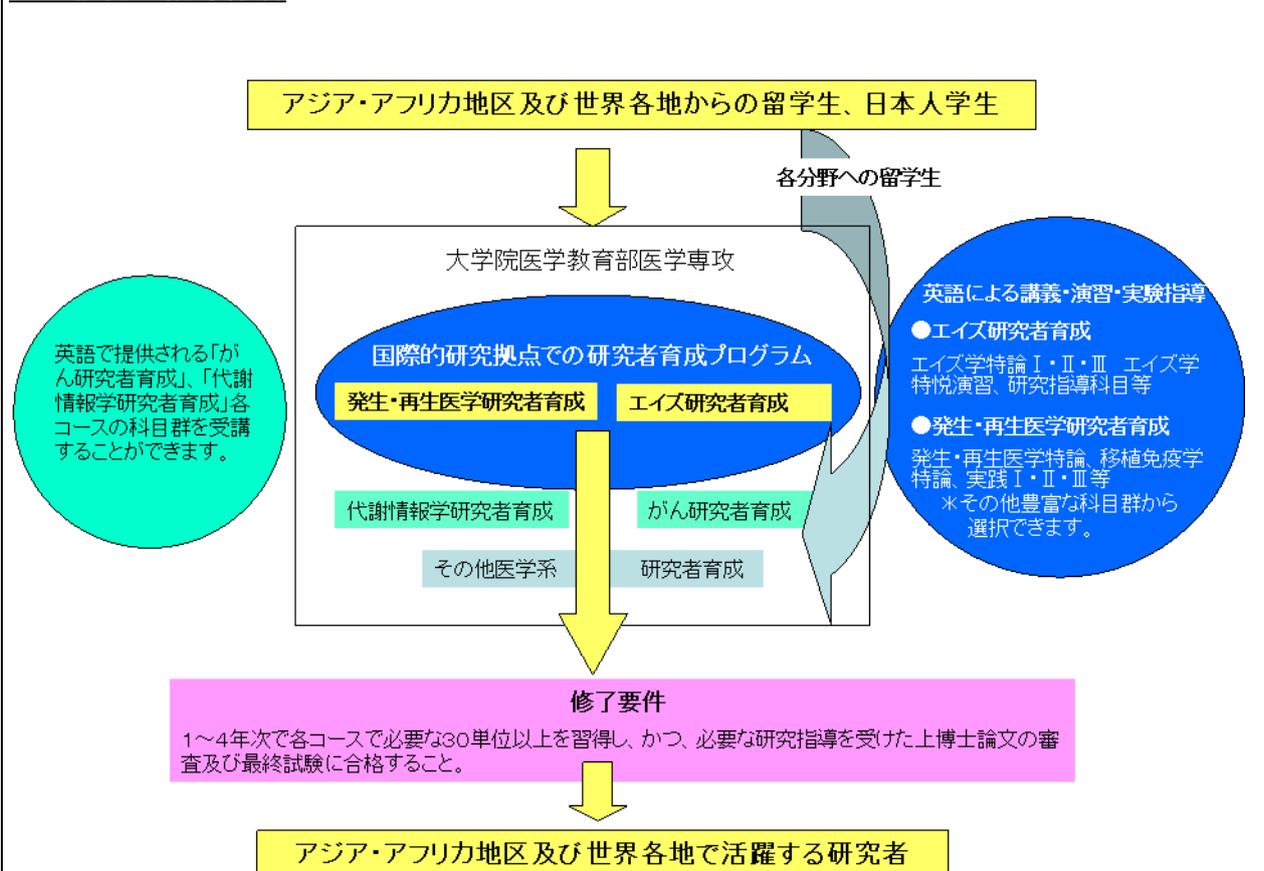
1. 開設の趣旨

本プログラムは、各国で問題を深めているエイズ、また新たな医療として注目を集めている発生・再生医学の分野に於いて、海外より優秀な知的野心にあふれた学生を「エイズ」、「発生・再生医学」の国際的な研究拠点である本教育部に受け入れ、幅広い知識と基礎・臨床研究の専門性を備えた「エイズ研究者」、「発生・再生医学研究者」という特定の人材を育成するものである。

2. 内容及び特色

- ①『エイズ研究者育成』：アフリカ諸国の中には国民の数十%がHIVに感染している国もあり、エイズ問題がその国の保健と言う観点だけでなく経済的にも深刻な状況になっている。また、アジアでもエイズの拡大が進んでおり、エイズ研究を推進する機運が高まっている。本プログラムでは、「エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム」を基盤に、エイズに特化した講義・演習・特別実験の指導を英語により行い、国内外の研究者からのアドバイスを受けられる体制を整え、外国人留学生、日本人学生を優れたエイズ研究者に育成する。
- ②『発生・再生医学研究者育成』：発生・再生医学は、21世紀の医学・生命科学における重要な分野に位置づけられ、発生学、免疫学、再建外科学等の多様な学問が集結するとともに、生命倫理に裏付けされた思考過程が求められる。このような学際的な諸領域を包括的に理解した、将来の再生医療を実践する専門性の高い優れた国際的人材の育成をめざした大学院教育を実施する。国際レベルの研究推進と、国際競争力強化を目的としたグローバルCOEプログラム「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」を基にした体系的な教育プログラムを活用し、国際的なCOEの現場で教育研究指導を受け、外国人留学生、日本人学生を優れた発生・再生医学研究者に育成する。

3. 教育・指導体制



①『エイズ研究者育成』：

「エイズ」の国際的研究拠点で提供する実践的カリキュラムとして、エイズ学特論ⅠⅡⅢ、トランスレーショナル研究特論、エイズ学演習ⅠⅡⅢⅣⅤ、トランスレーショナル研究特別演習、エ

エイズ学実習ⅠⅡⅢ、エイズ学研究、エイズ学特別研究を開講する。全ての授業を英語により提供する他、エイズ学特別演習ⅠⅡⅢⅣとして国際シンポジウム「熊本エイズセミナー」への参加・発表を通して国内外の研究者からのアドバイスを受けられる体制をとっている。また、1名の学生に対して3名の教員（1名の研究指導教員と2名のアドバイザー教員）による教育研究指導体制をとっており、複数の専門が異なる教員の指導によるきめの細かい論文指導を行う。

②『発生・再生医学研究者育成』:

幹細胞生物学など再生医学の基礎となる諸領域に関する講義、移植医療など応用的諸領域に関する講義、移植における免疫学的拒絶の制御に関する講義、生命倫理に関する講義などを行う。その他、Problem Based Learning法を取り入れた演習を行い、教員を含めたグループワークに取り組むなど、学生と教員が一体となった教育研究コミュニケーションを図る。研究指導には演習・実習・実験を組み合わせた授業形態をとる「実践」をあてる。複数の指導分野の「実践」科目を選択できるため、異なる指導分野から研究指導を受けることができる他、発生・再生医学に関連する広い学問分野の知識を涵養するために、国内外から招聘した講師によるセミナーの聴講を単位化するほか、発生・再生医学に関する国内外の学会への参加・発表を積極的に奨励し、単位を認定する。

4. 使用言語

英語を共通言語として教育研究指導を行う。カリキュラムの英語化により、外国人留学生に対して本学が国際的研究拠点としてすでに持っている先端的で豊富な情報をベースとした講義、演習、実験指導等の提供が可能となる。また、「エイズ」、「発生・再生医学」分野における国際的拠点である本教育部には共同研究構築のため世界的な研究者が多数訪れている。この優れた国際的な環境の中で研究者と学生が英語により日常的に討議できる機会を多く設けている。

5. プログラムの支援体制

①チューターによる支援

外国人留学生1名に対し、1名の外国人留学生を受け入れた分野の日本人学生をチューターとする。チューターは外国人留学生の日常生活、学習上の相談役となり、何か問題点など生じた場合には、指導教員及び留学生担当委員会がサポートする。

②日本語教育の支援

外国人留学生は、留学生センターが本教育部で行っている日本語教室において日常生活に必要な日本語を習得することができる。また、外国人留学生に対する各種奨学金申請や査証等については国際課がサポートする。

6. 募集方法、募集対象国、選考方法

募集方法は、英文募集要項により海外の交流協定校へ送付して推薦を依頼するとともに、医学教育部教授会を介してそれぞれの研究分野に推薦を依頼する。そのほか、本教育部の英文ホームページを通してアジア・アフリカ各国のみならず、世界各国より広く留学生を募集する。選考方法及び必要書類等の詳細については本医学教育部ホームページを参照すること。

7. 修了後に想定される進路、修了者に期待できる効果及びフォローアップ体制

修了後に帰国を義務付けている国など、状況は様々であると考えられるが、日本人修了者と同等の待遇を準備する。外国人留学生が特別研究員等の身分により滞在の延長を希望した際には、本プログラムに学生を推薦した派遣元大学が認める規定年数後に学生の帰国の保証を教育部長が与えることで、学生に対して、本プログラム修了後においても研究する場を提供し、より充実した実績を積み重ねることを可能とする。充実した実績はいずれの地においても留学生がリーダー的立場に選任される可能性を高め、出身大学に於いては教員となる道を開かせる助けとなる。企業等への就職を考えている学生に関しては、その希望に応じて日本企業への就職を斡旋する。